



龍谷大学社会科学研究所アフリカ研究センター
The Center for African Studies, Research Institute for Social Sciences, Ryukoku University

オートポイエーシス理論と国際関係

オートポイエーシス (autopoiesis) は、チリ人の生物学者マトゥラーナらによって 1970 年代に提唱された概念で、その後、ルーマンによって社会システム論（社会学理論）として体系化されました。オートポイエーシス理論は国際関係分析にもこれまで一部援用されてきましたが、それには批判の声がけっして少なくありませんでした。今回の研究会では、オートポイエーシス理論の基礎を学ぶとともに、それを国際関係分析に適用することが果たして可能なのか、やはり困難なのか、について再検討を試みます。

■講師：川村仁子氏(立命館大学国際関係学部准教授)

■日時：2017 年 10 月 28 日（土）14:30～17:00

■場所：龍谷大学深草学舎 紫英館 2 階 第一共同研究室

■共催：文部科学省科研費・新学術領域研究(研究領域提案型)

「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて:関係性中心の融合型人文社会科学の確立」計画研究 A02
「政治経済的地域統合」

■連絡先：ochiai[at]law.ryukoku.ac.jp（落合雄彦）

